

きくなり旁基底型に近づくものが増加するようである。また生後日数と共に次第に好酸性細胞が増加する傾向があり、他方細胞質内かグリコゲンは多少減少するようである。

238. 新生児胃内容液の高電圧濾紙電気泳動法による検討

(養育会)

木下 正一, 竹岡 秀策, 尾崎 崇
日野 侃

私たちは前の16回日本産科婦人科学会総会におきまして新生児胃内容液の高電圧濾紙電気泳動法を用いて、遊離アミノ酸の定性を試み、2, 3の興味ある知見を得ました。

即ち胃内容液を無処置のまま濾紙に塗布し 5,000V. 30分泳動致しましたところ出生直後の胃内容液にはリジン, グリシン, アラニンの外に5割分のアミノ酸又はポリペプチドを得ましたが、出生後2, 3時間後の内容液には、この他にヒスチジン又はアルギニンの割分が出現していることがわかりました。この泳動像は成人の泳動像と比較してみますと無酸症の胃液のそれと極めてよく似ておりました。

しかしながらこれら泳動像は比較的薄い像であつて殊に5割分のアミノ酸又はポリペプチドの分離、同定には満足し得る試料ではありませんでしたので、今回は前処置として濃縮又は脱蛋白等を行い、更に酸性処理等種々の操作を行ったものについて泳動を行い、最も条件のよい処理法を見出し、今後行わんとする実験の基礎実験を行った。

239. 胎児及び新生児死因に関する臨床病理学的研究 (第4報)

(東京警察)

田中 敏晴, 高山 忠夫, 福田 鉄雄
島山 良弥, 須田稻次郎, 藤崎 雅子
深山 真一, 中島 正夫, 松枝 和夫

われわれは既に本学会に於て産科学的新生児死因論の必要を認め Potter 分類の anoxia と abnormal pulmonary ventilation の中にその重要問題点があることを指摘、肺因子死亡の中に於ては excessive aspiration 過度羊水吸引が意外に重要な死因であることを報告して参りました。今回7年間の剖検例が91例に達しましたので茲に再び肺因子の問題につき追加し得ました知見の2, 3を報告したい。今回は肺所見を記号で表現し、客観的にその組合せについて検討してみたわけでありま

す。その結果、

1) 過度羊水吸引 excessive aspiration は生産児死亡の30%に認め、多くは呼吸障碍の下に短時間で死亡するが、一旦吸引した羊水の vernix caseosa debris の吸取消失は50日以上長期を要するものがあり、比較的長期間生存し途中で種々なる病変を合併して来る場合がある。

2) 過度羊水吸引を基礎として生後感染から肺炎を併発するもの、2次的に hyaline meculnan formation を合併するものがある。

3) 子宮内肺炎の発生は感染羊水の excessive aspiration に由来することが多く、子宮内胎児呼吸運動による場合に産科学的に意義が乏しいであろうことが組織学的に証明された。従つて、感染羊水の場合、児の分娩誘導に当つては更に児を anoxia に陥らしめない注意が最も必要であろう。

239に対する質問 (岡山大) 松岡 巖

肺因子死亡に於いて、肺硝子膜症所見が極めて少いという点では先生と全く同感であります。

次にお教え頂きたいのですが、肺因子死亡の原因を考える場合、肺胞隔形成不全(弾力センイ形成不全)と云うものは、考えらるべきものかどうかお尋ねしたい。

答弁 (東京警察) 松村 和夫
御意見有難う存じました。

未熟児肺所見で dysplasia は hypoplasia の規準は一体いかにあるべきかは非常に難しいと思います。1000g以下の未熟児では屢々、肺胞上皮の kubisch で且 atelektase の強い場合が確かにあるのであります。私はその場合にのみ一応 dysplasia と表現しましたが、症例を集積して行きますと、900g前後の未熟児でも成熟児肺胞上皮と同様に abplatten してよく形成されているのもありますので、一概に児体重と dysplasia を結合して考えるのは危険である様に思っております。

140. 奇形発生の要因に関する調査成績

(慶応大)

山口 清, 杉浦 鉄也, 飯塚 勲
尾島 信夫, 栗原 操寿

慶大産婦人科同窓会では会員有志が診療する各地の診療機関78に於て昭和36年9月から約1年半に亘り同一方針に従い各種要因の奇形発生率について前向き調査を行い集計結果を逐次関東連合地方部会に発表して来たが、こゝに2, 3の要因を加えて総括的に検討する。

妊娠中から扱った産婦について無選擇に調査用紙甲票に記載事項を記入し、奇形児分娩の際は乙票にも記入し

た。甲乙両票を整理集計して16,787例中単純奇形178例、2種合併29例、3種以上8例合計215例1.28%となり従来の調査に比して高率である。インフルエンザ様疾患例では奇形率1.74%で非罹患群の1.07%に比して有意差(危険率1%)あり、症状の強さで3階級に分けると重い程有意に高率である。母の罹患した妊娠月別にみると3カ月と7カ月にピークがみられるが原因は分らない。妊娠中何等かの原因で出血をみたことのある群では1.87%で非出血群の1.26%に有意差がみとめられる。

ゲスタゲン全体としては奇形全種目についても性器奇形についても非投与群との間に有意差は認められなかった。併しゲスタゲンを細分してみると、progesteroneあるいはEp注射群では対照に比して差はないが、合成ゲスタゲン内服群は2.79%で対照群1.25%に5%危険率で有意差がみとめられる。

母の梅毒陽性群では2.79%に達したが陽性例数が小さいため Yates の補正を行うと有意差はない。

血族結婚では7.35%、放射線の影響の疑われる例では、24.32%でともに著差がある。経産避妊薬使用例では3.42%で差を認めた。

児性及び初産・経産別では差がなく、母の年齢では26才以上が1.54%で25才以下の0.93%に比して差をみとめたが平行関係はみとめられなかった。

本調査の経験が今後行われるべき、より正確広汎なかかる奇形調査に、参考となれば幸いである。

241. 最近5年間の当教室に於ける先天性奇形の検討

(東京医大) 花岡知々夫, 林 達朗

サリドマイド奇形の問題により最近広く新生児奇形が注目されるに至りましたので我々は過去5年間の当教室に於ける先天性奇形の調査を試み併せて現在までに報告してきた奇形児例の成因と思われるものに就て考察を加え、本邦に於ける集団調査の一助になれば幸せと思ひ発表した。

尚今回の調査対象は奇形のみに関り行い、昭和35年1月1日より昭和39年12月31日までの5年間に入院分娩した5,240例で、そのうち入院期間中に確認し得た先天性外部奇形数は61例になり、その発現率は平均1.16%で、又たまたま剖検して発見し得た内部(内臓)奇形は8例であった。

奇形の種類については①単一奇形、②結合奇形、③重複奇形、④羊膜癒着による奇形の4つに大別し観察した結果、単一奇形にては顔部及び下肢に於ける奇形が各々14例で最も多く、海豹肢症は2例であった。複合奇形に

ついては11例に於て見られ、その発現率は18.0%の高率を示し、その内、筋、骨髄系の奇形が過半数を占めているのを知った。

又、奇形直前の妊娠・分娩の状況、奇形の分娩時胎位及び分娩様式、奇形妊娠中の母体合併症、妊娠・分娩時異常、母体性機能との関連、奇形児出産母体の既往疾患、内因を除外した際の環境因子等について検討を加え、更に現在までに報告して来た単眼症、海豹肢症、無心体、二頭一体、人魚体、横隔膜ヘルニア等の発生因子と思われるものについての考察を加え、胎児附属物特に臍帯血管の異常や、羊水過多症等が奇形発生に対して重要な要因の一つであると考えた。

241に対する追加 (順天堂大) 本多 正弘

私達の教室に於て、9カ月の終りにて1卵性双胎の死産分娩があり、第1児は1200g、第2児900gであつたが、第1児の臍帯血管には異常なく、児にも奇形が見当らなかつたが、第2児には臍帯ヘルニア、腹壁破裂等を合併しており、しかも臍帯動静脈1本づつの異常があつたので追加する。

追加 (九州大) 天ヶ瀬慶彦

九大産婦人科教室でも昭和21年より39年までの19年間における奇形の発生状況について、統計的考察を行いましたので追加致します。妊娠29週以降の分娩児総数は12,682例、外表奇形児数は124例、外表奇形発生頻度は0.98%で従来の報告とほぼ一致しております。年度別推移をみましたがきわだつた増加の傾向は認められませんでした。更にわれわれは終戦直後より奇形に対する関心が高まりだした現在までを4期に分けて比較検討を加えましたが、剖検率の向上した4期では内臓奇形の発見率が高まり、全奇形児数の発生頻度は約0.4%上昇しており剖検率の如何が、内臓奇形を含めた奇形児発生率に大きく関与するものと思われまふ。外表奇形124例の主な頻度は従来の報告とほぼ一致しておりますが、複合奇形12例中には、3例に内臓奇形を、又外表上は奇形のみられなかつたとき10例に内臓奇形(卵円孔開存、ポタロー氏管開存、肺分葉不全、副脾など直接生命に関係ないと思われるものは除外)を認めたことは注目すべきことだと思います。次に奇形発生要因に関する検討を行いました。家族性に奇形の発生をみたものが5例(3.7%)、first trimesterにおけるホルモン剤服用例が6例(4.4%)などでしたが、その意味づけは困難で、奇形発生成因の複雑さが改めて認識され prospective にも今後の調査方法に検討の余地があるものと思ひます。